

# 上中通信

令和5年度重点目標 互いを尊重し、聴き合い、学び合い、育ち合う生徒の育成

学校だより 4号

令和5年7月24日

発行：上湧別中学校

## 「学び合い」のある授業で育む 「互いを尊重し、聴き合う姿」とは

湧別町立上湧別中学校 校長 綾部 雅一

早いもので、明日から夏休みとなりました。6月から7月にかけては各部とも中体連があり、生徒たちは日々疲れている中でしたが、学習と部活動とをよく両立しているなど感心しました。都合により全ての大会を見に行くことができず残念でしたが、最後まであきらめず精一杯やり遂げる姿にたくさんの感動をもらいました。4月からここまでの生徒の皆さんの努力は、本当に素晴らしいと感じています。

さて、7月に入り、本校では教職員の研修で多くの授業研究を行いました。生徒同士が「学び合う」授業をつくることで、一人残らず全ての生徒の学びを保障することができるかどうか。互いの授業を参観し合ったり、大学教授を招いての研修会（次頁参照）を行ったりしてきました。上中の生徒たちがより良く学び、将来を生き抜く力を育むことができるようになってほしい。そのような願いをもって進めてきました。先生方が頻繁に授業を見に来ているので、生徒たちは少し学習しづらかったかもしれませんが。そのような中でも、生徒たちはどの学年も熱心に学びに向かうことができていると感じました。

中でも驚いたのは、7月10日に行われた授業研究で、3年生の数学の授業を参観した際の生徒たちの学び合いの様子でした。決して簡単な課題ではありませんでしたが、全員が公式を導き出すまでの過程をプリントに書くことができました。もちろん一人で書くのは難しいという生徒もいましたが、先に書けた生徒がまだ書けていない生徒を見守りながら、わからないときに必要なことだけを教えて、自力で解決するのを待っていました。このような個の学びを尊重したケアの関係が全ての生徒を網羅していて、教室全体に学び合いが広がっていました。これはまさに「互いを尊重し、聴き合う姿」です。一人残らず全員が1時間を全力で思考・判断・表現し続け、課題をクリアしていく姿は本当に「凄い！」と思いました。



私は、このように学び合う授業が、他者と関わりながら幸福に生きる力（「ウェルビーイング」を実現する力）を育むのではないかと考えています。7月11日に来られた大学教授からも、「このように学ぶことのできる上中の生徒たちは幸せになれる」との言葉を残していただきました。

日常の授業の中で「互いを尊重し合い、聴き合い、学び合い、育ち合う」生徒と教師のいる学校。そして、それを支える保護者・地域とで連携した「チーム上中」を目指し、引き続き授業改善に努めて参りたいと思います。今後も保護者・地域の皆様には本校教育活動に対するご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 校舎増築工事が始まりました

7月12日より、義務教育学校の校舎増築工事が始まり、正門からの出入りができなくなっています。夏季休業中に正面玄関側で増築校舎の工事が行われます。校舎への出入りは体育館側の入口からとなりますのでご了承ください。



# 「授業づくり」研修会（学校公開研究会）

～生徒の頑張りによる素晴らしい授業風景～

11日（火）に上湧別中学校の公開研究会である「授業づくり」研修会が実施されました。東大名誉教授である佐藤学氏と北海道大学院教授である守屋淳氏を講師としてお迎えし、遠くは江差町や利尻富士町をはじめ町内・管内外から100名を超える先生方の参加がありました。生徒も緊張した様子でしたが、普段通り集中して授業に臨み、アンケートでは「上湧別中学校の生徒の取り組みが素晴らしい」など、上中学生を評価する多くの意見が寄せられました。講演者として参加いただいた佐藤学氏からも「上湧別中学校の生徒の個性が光っている」などコメントをいただいています。夏休み前のちょっとしたイベントになりましたが、これだけ多くの方に見て貰う経験はなかなかないでしょう。こういった機会にたくさんの人と触れあい、様々な知識を貰って成長に繋げて欲しいと思います。



## 生徒会企画全校交流

6月30日（金）に生徒会企画による全校交流が行われました。昼休みを活用して、全校生徒が各グループに分かれて「NG」ワードゲームを楽しみました。1年生も先輩方と混じって緊張することなく、とても楽しそう。生徒会役員のみなさん、ありがとうございました。





日	曜	学 校 行 事	生徒会	日課	給食	部活	バ ス
1	火						
2	水						
3	木						
4	金						
5	土	北見地区吹奏楽コンクール バレージュニアキャンプ					
6	日	バレージュニアキャンプ					
7	月						
8	火						
9	水						
10	木	学校閉庁日					
11	金	山の日					
12	土	学校閉庁日					
13	日	学校閉庁日					
14	月	学校閉庁日					
15	火	学校閉庁日					
16	水						
17	木	職員会議、部活動中止		5	○	×	14:30
18	金	部活動中止		6	○	×	15:40
19	土	部活動中止					
20	日	部活動中止					
21	月	部活動中止		6	○	×	15:40
22	火	部活動中止		6	○	×	15:40
23	水	前期末テスト		6	○	○	15:40/18:24
24	木		執行委員会	6	○	○	15:40/18:24
25	金		各種委員会	5	○	○	14:30/15:40/18:24
26	土						
27	日						
28	月	芸術鑑賞、職員会議		5	○	×	14:30
29	火			6	○	○	15:40/18:24
30	水	2年生宿泊研修		6	○	○	15:40/18:24
31	木	2年生宿泊研修		6	○	○	15:40/18:24

生徒・保護者の皆さんへ

# 心のホットライン ～パーソナリティとは～

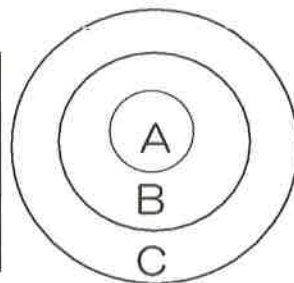


今日は少し専門的なお話をします。

パーソナリティ (personality) という言葉は、演劇で使われる「仮面」を意味するラテン語のペルソナ (persona) がもとになっています。心理学では、人がそれぞれもっている考え方や感じ方、行動などの特徴をパーソナリティ (人格) と呼んでいます。皆さんが使う性格と似たような意味で使われています。皆さんは「あなたの性格は？」と尋ねられたら何と答えますか？この質問には結構答え方が難しいですね。

例えば、ある有名なお笑い芸人で、テレビなどメディアの中ではいつも陽気で社交的なのに、実生活では意外と無口で1人が好きという人がいますね。その人の場合、「私は明るいです」だけでは伝えきれない側面があるのです。次の図を見て下さい。

A: 気質 → 体質と同様に感情面での生まれもった性質  
B 狭い意味の性格・人格 → Aに環境的な影響が加わったもの  
C 役割性格 → 生徒・先生といった社会的な役割に関する性格



1番内側(A)が生まれつきもっているその人の根本的な性格傾向で、最も変化がしにくいのです。外側になるほど、後の環境や経験によって影響を受けやすくなります。つまりパーソナリティとは、生まれ持った気質、さらには遺伝要因と環境要因が複雑に絡み合って形成されるのです。(昔は遺伝要因か環境要因のどちらかの影響でパーソナリティは形成されると考えられていました。)

このようにパーソナリティの構造を考えると、初対面の時は1番外側(C)の性格で出逢っているが、親しくなるにつれてAの部分が見えてきたりします。だから大切なことは「あの人は、こういう人だ」と決めつけずに「こういう部分もある」など気付いていけるように、少しずつわかりあうことです。わかり合う努力をすると、案外自分と共通する部分が見えてくるかもしれません。また、似ている部分が無かったとしても、自分との違いを楽しむことができるかもしれませんね。

自分の性格で「こういったところが好きでない」と思うところがある人は「少しずつ性格を変えていける。」ということも覚えておくと良いでしょう。